



一橋新聞部

〒186-8601 東京都国立市中2-1 一橋大学西キャンパス 学生会館別館1F

編集長 亀田英太郎 印刷 ウェブプレス http://hit-press.org/

新人記者募集中

生協夜営業始まる

18時以降も利用可能に 4月より試験的に

本学消費生活協同組合（以下、生協）は4月から試験的に、西食堂の夜間営業を約3年ぶりに再開した。本紙は再開の経緯や現在の利用状況、今後の課題などについて、生協専務理事の小岩輝代さんにお話を伺うとともに、利用者の声も取材した。

そもそも夜間営業は新たに始まったものではなく、コロナ禍前の19年12月まで、西食堂は中間休業なしで昼から夜まで営業していた。しかし新型コロナウイルス感染症の流行により、オンライン授業が中心となる中、西食堂の利用者は激減した。こうした経緯から夜間営業を中止せざるを得なくなったという。

しかし、新型コロナウイルス感染症の発生から約3年が経ち、社会がアフターコロナに向かいつつある中、本学でも対面授業が徐々に再開されるようになった。これを機に生協は学生に対し、生協利用

についてのアンケートを実施し、夜間営業を求める声が多くなりあるかを調査した。結果は営業時間の延長希望が約4割に上った。

アンケートでは、メニューに関する要望も寄せられた。400円から500円の価格帯で、定食型のメニューを求める声が多かったという。また、ご飯の大きさを求める声も目立った。

こうした学生の意見を踏まえ、4月から西食堂の夜間営業が再開された。メニューは定食3種類で、価格はすべて500円（ご飯大盛りはプラス50円）。メニューについては学生が頻りに利用しても飽きないよう、週の途中で差し替えているという。

ただし現在の営業時間は、中間休業を挟んで18時から20時までであり、休業を挟まず営業するという、コロナ禍前のスタイルに完全に戻ったとは言えない。小岩専務はその

理由について、人件費と食品ロスの問題を挙げる。夕方は営業したとしても利用者が少なく、採算が取れない。また一般に、売れ残った食料を廃棄することになれば、費用だけでなく環境の面からも問題だ。さらに、生協のスタッフは大学周辺の主婦の方を中心に、夕方は夕食の支度などの家事をするため、一旦家に帰らなければならないという事情もあるようだ。

現在の利用状況は及第点だと話す小岩専務。1つのも一日の利用者数80人を夜間営業継続の目安としており、取材時点の平均利用者数は94人と、これを上回っているからだ。ただし、曜日による利用者数のばらつきがあり、月曜



夜間営業中の西食堂の様子。夜間営業時間も、部活動や5限終わりの学生でにぎわう。

や火曜の利用は多いものの、週の後半にかけて段々利用者が減っていく傾向があるようだ。とはいえ現在の利用水準が維持できれば、夜間営業は問題なく継続できるといえる。

実際の営業の様子を取材すると、利用者層としては部活動終わりの学生に加え、5限授業の後に来たという学生も多かった。利用者の一人（社1）に、なぜ夜間営業を利用したのかを聞くと「授業終わりで家も近いから」と話した。また別の利用者（法2）は「部活終わりまで来た。安くてよい」と満足そうだった。

今後の課題は何だろうか。小岩専務はその一つに、支払いが現金のみの対応であることとを挙げる。実際、営業の様

転学部経験者インタビュー

阿部風さん（法→商3）

子を取材している際にも、現金しか使えないと知り、財布を取りに行く利用者がいた。取材に応じてくれた前出の利用者2人からも「ばいPay（生協電子マネー）で支払えるようにしてほしい」との声が聞かれた。ばいPayを夜間営業に導入しなかった理由には、夜間はスタッフが少なく、システムエラーが発生した場合に対応が困難であることなどがあがるが、食券での支払いなども含め、今後キャッシュレス決済に対応していくことも検討中だという。

取材の最後に、小岩専務は「利用が拡大すれば、営業の可能性も広がる」と語った。一日の平均利用者数が130人を超えれば、メニューの選択肢を増やす可能性もあるという。今後の夜間営業をさらに充実させていくためには、学生の積極的な利用が望まれる。



今回インタビューに応じてくれた阿部さん。

【内田輝大】

本学には、入学後に所属学部を変更できる転学部制度がある。実際に法学部から商学部へ転学部をした阿部風さん（商3）に話を聞き、転学部をする魅力や苦労を探った。

では、まず本学の転学部制度は、一体どのようなものだろうか。本制度の利用は、前期課程に一年以上在学し、後期課程に進学していない学生を対象に、一回に限り認められる（なお、ソーシャル・データサイエンス学部への転学部、また当学部からの転学部は認められていない）。転学部を希望する者は、各学部がCELS上で公表する実施要項に基づき、転学部願等を出し、選考試験を受ける。選考方法は各学部が所定の時期（例年だと12月）に掲示するが、阿部さんの場合は、商学部の教員との口頭試験を受けた。そこでは主に、転学部の志望動機が確認されるものかどうかが問われたという。

阿部さんは昨年この制度を利用して、法学部から商学部への転学部を果たしたが、その行動の主な要因として入試の学習に専念できていたことを有意味に感じており、転学部には非常に満足しているという。そして、受験時に大学で学びたいことが明確に決まっていなかったことや、入学後に他学部の学問領域に興味を持った人にとって、本制度は非常に良いものだと思っ「と太鼓判を押した。

【齊藤文一郎】



就活をやっていると、自分がこれまで歩んできた歴史、いわば自分史を、エントリーシートに書かせたり、面接でそれを語るよう求められたりすることがある。「自分のことを語れと言われても」と嘆く友人たちを尻目に、私はニヤニヤしていた。私のことを、「ジブン博士」とでも呼んでくれ。ジブン博士は自分史の史料を集めることに余念がない。私の本棚や机の周りには、自分史の資料が詰まりに詰まっている。趣味である旅行で使ったきつぷりや買ったパンフレットたちはクリアファイルに挟んで、旅行先で撮った無数の写真はUSBメモリに移して保存されている。パソコンの画面を前にマウスのホイールを転がせば、過去に投稿したツイートを遡ることが出来る。たかが写真、たかがツイートと侮るな。過去の自分の写真は当時の行動の軌跡であり、過去の自分の発言は当時の感情の魚拓であるのだから。それらを見返せば、あの日の自分の姿がありありと浮かんでくる。しかしエントリーシートを前にして発覚したが、ジブン博士にとって自分史の「編集」はあまり得意ではなかった。小学生時代、中学生時代の出来事を思い出すために、史料を限なくかき回す。かなりの時間と労力をかけて思い出すことはできるにしても、ではそれを一定の軸をもって統一的に記述せよと言われると手が止まる。記録を蓄積すること、それを生かしてまとまりのあるテキストを編むことは別次元の作業だ。そんな当たり前のことに今さら気が付くジブン博士。ジブン博士は、自分史の権威ではなかった。ジブン博士の研究は、新たな段階に突入したようだ。過去の行動と感情を追って、存在するのかわからないストーリーの流れを探り当てる。そんな作業の果てに、新たな自分を発見できるかもしれない。過酷な就活の中、ジブン博士は結構前向きだ。

【齊藤文一郎】

企画欲 取材欲 執筆欲 写真欲 編集欲

容量無制限

一橋新聞部

大閲覧室開室日制限

燃料費高騰で維持困難に 試験期間の土日、休業期の平日は閉室

5月19日、本学附属図書館はホームページにて、燃料費高騰を理由に、大閲覧室の開室日を制限すると発表した。これによると、試験期間の土日（5月27日から28日、7月15日から16日、10月28日から29日、12月16日から17日）及び休業期の平日（8月5日から9月10日、2024年2月6日から3月31日）には、大閲覧室が利用できなくなる。本紙では、今回の決定に踏み切った理由や、現在の大閲覧室の利用状況について、本学担当者にお話を伺った。

本学は「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」の定める特定事業者に該当しており、継続的に消費エネルギーの削減に取り組んでいる。実際、2022年度の国立キャンパスにおける電気使用量は、2013年度に比べて25・4%削減されている。しかしながら、本学担当者は「昨年度以降の社会情勢に起因する資源価格の高騰と円安の進行に伴うエネルギー価格の上昇が、大学運営に少なからぬ影響を及ぼしている」と話す。中でも本学附属図書館は、全学の電気使用量の約2割を占めており、大閲覧室だけでも一定の期間閉室する



本学附属図書館の大閲覧室の様子（本学広報課提供）。

ことができれば、電気使用量や燃料費の削減に一定の効果が見込めるという。一方で利用者からは、大閲覧室の開室制限により、閲覧席不足などの問題が生じるのではとの声もあがった。それに対し、担当者は「図書館全体として閲覧席が不足する状況にはならない」との見方に立つ。その理由の一つとして、5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の影響で半数に制限されていた閲覧席が元の数に戻ったことがある。これにより、大閲覧室以外で

も400席以上が利用可能となった。また、現状図書館の利用者数自体が新型コロナウイルス感染症の流行前よりも少なく、閲覧席にはかなり余裕がある。そのうえ、今回大閲覧室が閉室される休業期については、例年利用者が授業期間の3分の1から4分の1となるという。以上を踏まえれば、閲覧席の不足は生じないというのが本学附属図書館の考えだ。

担当者は取材の最後に、「サービスの一部制限につながる検討を行うにあたっては、図

2023年度 新任教員インタビュー 社会学研究科 竹中歩教授

2023年度の新任教員インタビューでは、竹中歩教授（社会学研究科）を取材。専門の国際社会学や先生の研究についてお話を伺った。

先生の研究内容について教えてください。

国際社会学は、グローバル化の中での越境的な人口移動、またそれらに付随するさまざまな現象（エスニシティ、人種問題、コミュニティが形成再構築される過程移動に関する不平等の問題など）を社会科学の視座から研究する学問分野です。要するに、どのような人々が、どこからどこへ動くのか。また、どのような人々が「動ける」のか、「動かない」のか。どのような人々が移動のための手段、資源、ネットワークを持っているのか、持っているのか。これらのパターンが、人々のアイデンティティやエスニシティ、社会移動とどのような連関を持つのかということが現在の主な研究内容です。

また、グローバルな動きの中では、ヒト以外にモノも動きます。もしくは、モノが動くからヒトが動くということもあるでしょう。その中で、現在はとりわけ「食文化」の動きに関心を持っていてます。移民の人々のエスニシティの表出やアイデンティティのあり方、もしくは文化適応文化融合の現れとして「食文化」のあり方やその動きを分析対象としています。



今回インタビューに答えていただいた竹中歩教授。

きつかけは偶然でした。自分が取り組んでいた研究がとも面白く、やめられなくなりましたという（笑）。実は最初から研究者になろうと思って博士課程に進んだわけでもなく、大学院に行ったら面白くもありません。面白くもなかったことを続けてきた結果として、今の研究者の私がいいます。

また、教員になって、研究だけではなく、教えることもすごく楽しいということに気が付いたんです。学が上で一番良い方法は、教えることだと思います。大学に集まる学生たちの文化や考え、バックグラウンドはさまざまです。参加型の講義をしているうちに、学生さんが考えたアイデアなどを聞きながら、それが活躍するような形で議論が展開するのは、私自身にとっても本心に勉強になります。このようなことを発見したのもあって、今に至ります。

研究を行う上で大切にしていることはありますか。研究に協力してくれている人々へのリスペクトと感謝です。私はエスノグラフィという

分の世界から一歩外に出てみることで、得られる新しい気付きは多いです。考え直すことは学びの上でも、研究・教育の上でも重要なと思っていますが、その手助けの一つとして、国際社会学があります。

講義ではどのような内容を扱っていますか。

移民研究、国際人口理論、エスニシティ、人種エスニツクコミュニティ、ナショナルアイデンティティ、「人種」や「民族」という概念はどこから来たのか、といったテーマを主に扱っています。「エスニシティ」などは、日本の学生の皆さんにとってはまだなじみのない話題であるかもしれませんが、考えてみてほしいテーマです。自分とは異なる社会的背景を持つ人々の立場に立つてみるということは、良い学びになります。そういうことを考えながら授業を行っている

最後に、一橋生へのメッセージをお願いします。

自分の環境や身近なところを超えて、国際的な視野を養う機会をたくさん持つてもらいたいです。必ずしも海外へ出る必要はありません。例えば授業の中でいろいろな人と議論したり、交流をしたり。または本を読んで勉強するのでもいいですし、関連する授業を履修してみる、もちろん留学に行くのも良いです。国際的な視野を育む方法にはいろいろな形があると思います。そういった機会を大切にもらいたいです。そして、私自身も学生の皆さんとの交流や意見交換を通じて学び取りたいと思っていますし、お互いに学んでいける機会を作れば良いと思います。

【注】

書館利用者への影響が最小限となるよう配慮しています。そのような観点から、利用者のみならずへの負担を可能な限り小さなものにしつつ、一定の効果が見込まれる対策として、独立して閉室が可能である大閲覧室を対象として閉室することにいたしました。利用者への理解を求めるとして、今回の決定は令和5年度以降の運営については未定だといふ。

【亀田英太郎】

どのようなきっかけで研究者の道に進むことを選んだ

研究を行う上で大切にしていることはありますか。研究に協力してくれている人々へのリスペクトと感謝です。私はエスノグラフィとい

国際社会学の魅力や面白さはどういったところにありますか。



韓国・ソウルにて、「ニッケイフード」に関する講義の様子（竹中教授提供）。

教員インタビュー企画 市原麻衣子教授



今回インタビューに答えていただいた
市原麻衣子教授。

—自己紹介をお願いします。

市原麻衣子です。法学研究科と国際・公共政策大学院で国際政治学を教えています。また、国際交流担当の副学長補佐として、海外の大学との共同研究推進にも関わっています。さらに、グローバル・ガバナンス研究センター（以下、GGR）で「民主主義・人権プログラム」を率いています。研究領域は、民主化支援と影響工作です。

—民主化支援と影響工作とはどういう分野ですか。

民主化支援というのは、国際政治学と比較政治学の学際領域にある分野です。端的に言えば、ある国に民主化を目指す政治的な動きがあるときに、そこに様々なアクターがどのように関わっているのかを分析するものです。私は特に海外のアクターが行っている支援に注目しています。具体的には外交的援助、法整備支援、経済的援助などです。

影響工作というのは、一部の権威主義国が民主主義社会でプロパガンダや偽情報の拡散、メディアや政治家の買収などによって影響を及ぼそうとする活動です。権威主義国

のアクターたちは、自国内で民主化を求める動きが発生するのを抑える方法の一つとして、民主主義社会を分断して、民主主義の魅力を失わせようとするわけです。2016年のアメリカの大統領選にロシアが介入したことなどが典型的な例です。

—民主主義と人権に興味を持った理由を教えてください。

もともと人権分野に関する関心は強かったです。高校時代から様々な本を読んでいましたし、学部（獨協大学外国語学部）時代に所属していたテニスサークルでは女子部員への差別に反対する人権運動を一人で行いました。

それから、東南アジアの政治状況に関心を持ったのも大きいと思います。祖父がもともと元建設省（現在の国土交通省）で東南アジアのODAに携わっており、マレーシアやタイに住んでいたこともあった影響で、子供のころからよく東南アジアの話が聞かされてきました。特に私の学生時代は、東南アジア、とりわけ現在の東ティモール（当時はインドネシアの統治下にあった）の政治状況が非常に悪い時期でした。その影響もあって学部の卒業論文はインドネシアの東ティモール併合について書きました。

私が学部を卒業したのが1999年なのですが、その前年にインドネシアの民主化があって、アメリカやヨーロッパ諸国はかなり積極的に支援をしていたのですが、同じアジアの国なのに日本からの

支援は手薄でした。それがなぜなのか疑問を持ったのが大きな契機でした。それからわたしはアメリカへ留学して、最終的にこちらで博士号を取ったのですが、当時のアメリカの空気に大きく影響を受けました。私がジョージ・ワシントン大学の博士課程に進んだのが2004年だったのですが、当時のアメリカは、2003年のイラク戦争のあとイラクをどうやって民主主義国家として再建するかという話でもちぎりでした。そこで、民主主義国家建設にあたって海外のアクターがどう関わるかを研究テーマに設定しました。それがそのまま現在の研究につながっていますね。

—民主主義・人権プログラムをはじめられた理由をお聞かせください。

GGRには3つのプログラムがあり、民主主義・人権プログラムはその一つです。プログラムを始めたきっかけは、日本には、大学生が民主主義や人権に関心を持った場が少ないと気付いたことです。日本はNGOも弱いし、企業もそんなに人権活動に力を入れておらず、この分野を深く掘り下げる大学院も意外に少ない。そこで、きちんと人権に関して、学び考えられる場所がここにあるんだというところをわかってもらいたいと思って、このプログラムを始めました。

—プログラムではどんな活動をされていますか。

大きく3つの活動を柱にしています。1つはセミナーです。毎月大学の内外から有識者を招き、専門分野に関して話をしていたいです。2つ目は出版です。GGRにはワーキングペーパーとイシューブリーフィングという二つのシリーズがあり、様々なテーマについて学内外の方々に書いていただき、出版しています。特に私のプログラムでは民主主義と人権に関する問題で、日本でもまだ十分に知られていない分野を紹介したり、新しい分析や研究を発表したりしています。3つ目は若手の育成です。学生をアシスタントとして雇い、彼らに出版や研究支援の経験を積んでもらっています。また2月からは、全国の大学生を選抜して、偽情報に

載されているものの、大学による最新の発表によると、2023年度は対面とオンラインを併用する現行の仕組みが継続される。なお、現時点では次年度の授業形態に関しては発表されていない。大部分の規制が撤廃され、本学の活動がコロナ禍以前に戻りつつある一方で、学生会館の規制は撤廃されていない。コロナ禍以前は24時間開館していたが、現在は夜間は施錠されている状態だ。一部には24時間の開館を求める声もあるが、今後に関しては見通しが立っていない状況だ。大学側は、様々な制限を撤廃する一方で、引き続き感染症予防を怠らないようにと本学関係者に呼びかけている。【友定隆】

新型コロナ5類移行 本学活動レベル指針0へ

2023年5月8日、新型コロナウイルス感染症の感染症状上の位置付けが5類へ移行し、本学の活動指針レベルが0に変更された。これを受けて、大学内での制限がほぼすべて撤廃される。

課外活動や研究活動に関しては、大学側は「制限なし」としている。そのため、これまで課外活動をする団体に義務づけていた「活動制限下での課外活動」の申請手続きおよび「対外試合等予定リスト」の提出は不要となる。

授業形態に関しては、大学が定める活動指針におけるレベル0の項目では「制限なし（原則として対面授業）」と記

載されているものの、大学による最新の発表によると、2023年度は対面とオンラインを併用する現行の仕組みが継続される。なお、現時点では次年度の授業形態に関しては発表されていない。大部分の規制が撤廃され、本学の活動がコロナ禍以前に戻りつつある一方で、学生会館の規制は撤廃されていない。コロナ禍以前は24時間開館していたが、現在は夜間は施錠されている状態だ。一部には24時間の開館を求める声もあるが、今後に関しては見通しが立っていない状況だ。大学側は、様々な制限を撤廃する一方で、引き続き感染症予防を怠らないようにと本学関係者に呼びかけている。【友定隆】

対抗する言論形成のためのトレーニングを始めています。—最後に学生たちへのメッセージをお願いします。一橋の皆さんには、空気に流されずに自分のイニシアティブを発揮してほしいと思います。日本人の学生は周りの様子を見て、例えばマスクを外すか、意見を言つかなど、まず誰かが動くのを見てからそれに合わせようという感じが強いですが、そういう癖がついてしまうと、国際会議などで発言がしにくくなるし、なにより権力にコントロールされやすい社会になってしまっ、民主主義の基盤が育っていかないと、積極的に発言・行動することを大事にしてほしいです。【厳豊】

対抗する言論形成のためのトレーニングを始めています。—最後に学生たちへのメッセージをお願いします。一橋の皆さんには、空気に流されずに自分のイニシアティブを発揮してほしいと思います。日本人の学生は周りの様子を見て、例えばマスクを外すか、意見を言つかなど、まず誰かが動くのを見てからそれに合わせようという感じが強いですが、そういう癖がついてしまうと、国際会議などで発言がしにくくなるし、なにより権力にコントロールされやすい社会になってしまっ、民主主義の基盤が育っていかないと、積極的に発言・行動することを大事にしてほしいです。【厳豊】

令和5年 TFC 夏ライブ
プラネタリウム
～夏の大三角～
9/2 @兼松講堂
開場14:30 開演15:00

Instagram Twitter YouTube

予告広告

この広告は予告広告です。販売開始は、2023年8月頃を予定しています。販売価格・販売戸数は未定です。本広告を行うまでは、本販売物件に関する購入のお申込み、契約締結等には一切応じることはできませんので、あらかじめご了承願います。表示の取引内容及び取引条件は、すべての予定販売戸数(18戸)を基に表示しており、本広告において、販売戸数を明示します。

積水ハウスの分譲マンション
GRANDE MAISON
グランドメゾン

美景の国立、
本流の邸域。

グランドメゾン
国立
富士見通り

JR中央線
「国立」駅徒歩10分
(約790m)

国立富士見通りに
10年*1
ぶりの分譲マンション

全邸南向き&全邸角住戸
専有面積70㎡台中心

1フロア2邸
全18邸

新発表
コンセプトルーム案内会開催中【予約制】

お問い合わせは「グランドメゾン国立富士見通り」販売準備室
0120-160-018 gm国立 検索
【営業時間】10:00~18:00【定休日】水・木・祝日
https://tyo.s-gm.com/kunitachi/

積水ハウス株式会社

※1.発売が1995年1月~2022年12月8日までのMRC調査・補綴に基づく分譲マンションデータで富士見通りに面した分譲マンションの発売は2011年8月以降確認できておいません。(有)エム・アール・シー調べ ※掲載の外観完成予想CGは、約29mの高さから現地方面を撮影した写真(2023年1月)に、計画段階の図面を基に描き起こした外観完成予想CGを合成加工したもので実際とは異なります。景観は今後の周辺環境の変化に伴い、将来にわたって保証されるものではありません。また外観の形状・質感・色味等は実際とは異なります。外観の細部・設備機器・配管・照明機器等および周辺建物・電柱・架線・標識等は一部省略又は簡略化しております。

2022年度自治団体連合費・学部協議会会計報告

2022年5月～2023年4月 学部協議会会計報告

期首残高	47650	
期末残高	378833	※収入－支出
差額	331183	331183

収入			支出		
日時	相手	金額	日時	相手	金額
8/25	KODAIRA 祭	34890	10/18	国立大学法人	1385147
9/5	新入生歓迎委員会	8636		振込手数料	220
9/7	公共料金	6480	計		1385367
9/8	体育会	60897			
9/9	公共料金	7524			
9/12	公共料金	4574			
9/14	公共料金	267752			
9/15	公共料金	8686			
	公共料金	133			
	学生会館	148891			
9/21	公共料金	1068			
9/22	公共料金	72992			
9/29	公共料金	637957			
10/14	柔道部	116030			
2/20	受取利息	1			
4/26	ラグビー部	334209			
4/28	硬式野球部	5830			
計		1716550			

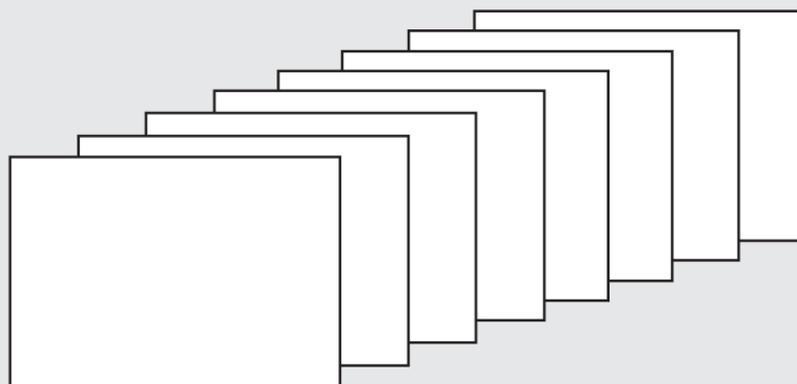
2022年5月～2023年4月 自治団体連合費会計報告

期首残高	162116	
期末残高	1999477	※収入－支出
差額	1837361	1837361

収入			支出		
日時	相手	金額	日時	相手	金額
8/10	自団連費	1000000	8/10	A一橋大学	550000
11/24	自団連費	1000000		振込手数料	220
11/26	自団連費	1000000		新聞部	300000
11/27	自団連費	1000000		振込手数料	220
12/5	自団連費	1000000	11/29	新入生歓迎委員会	300000
2/20	受取利息	1		振込手数料	220
4/30	自団連費	1870000		文化団体連合	750000
				振込手数料	220
計	6870001			新聞部	300000
				振込手数料	220
				KODAIRA 祭	660000
				振込手数料	220
				一橋祭	820000
				振込手数料	220
			12/6	体育会総務	450000
				振込手数料	440
			12/22	体育会総務	80000
				振込手数料	440
				一橋祭	820000
				振込手数料	220
			計		5032640

1世紀続く、言葉のバトン。

紡げ、新たな1ページ。



第百代編集部、部員求む。

一橋新聞部